

難治性胸腺腫に対する外科切除の役割

1. 研究の対象

1990 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに当院において、胸膜播種病変や自己免疫性疾患を伴う胸腺腫に対して外科切除を施行された方

2. 研究目的・方法

胸腺腫は比較的稀な疾患で、完全に病変切除ができた場合の治療成績は肺癌などの他の悪性腫瘍と比較すると良好です。しかしながら、診断時に胸膜播種病変を伴っている場合や完全切除に胸膜播種再発を認める場合、さらには自己免疫性疾患を合併する場合があります、治療に難渋することがあります。これらの難治性胸腺腫に対する治療として外科切除は有効とする報告が多いですが、比較的稀な疾患であるため、長期成績を含めてその詳細なデータは乏しいのが現状です。そこで大阪大学呼吸器外科では、過去 20 年の間で、難治性胸腺腫に対して外科切除を受けた患者さんの患者基本情報、治療内容、再発の有無および生存を調査します。胸膜播種を伴ったり自己免疫性疾患を伴う場合の難治性胸腺腫患者さんにおける外科切除の治療効果について検討するのが本研究の目的です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究で利用する情報は登録されている臨床情報です（性別、年齢、組織型、治療内容と治療日、追加治療の有無、手術前の化学療法の有無、手術日、病期、腫瘍径、手術術式、切除根治性、補助療法の有無、最終確認日、転帰、再発部位、再発後治療など）。試料は利用しません。

4. 外部への試料・情報の提供

外部に情報を提供することはありません。

5. 研究組織

本研究は大阪大学呼吸器外科にて行われます。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器外科教室 新谷 康

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘 2-2-L5

TEL: 06-6879-3152